

vol.52-02 (通算 587号)

2022年5月号

やどかり

2022年5月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)

戦争と障害のある人

2022年2月、ロシアのウクライナ侵攻のニュースは世界を駆け巡った。世界中から「No! War!」の叫びがあがった。

私たちは歴史を学ぶ中で、戦争は障害のある人にとって最も深刻な凶事であることを知らされてきた。戦時下、戦争に役立たない人間は「穀つぶし」と呼ばれ、肩身狭く生きざるを得なかった。深刻な食糧難の戦後、精神病院の入院患者の多くが餓死した。戦争によって精神疾患を発症し帰国した人たちは、精神病院に隔離され故郷にも戻れず、「未復員」の精神障害者として、長年月を精神病院で暮らすことを余儀なくされた。

ウクライナの障害のある人たちは戦禍の広がる中でどのような日々を送っているのだろうか、安全な場所に避難できているのだろうか、マスメディアでも障害のある人たちのことはほとんど報道されない。私たちがウクライナの障害のある人の状況を知ったのは、EASPD（欧州障害者サービス事業者協会）のニュースレター（3月11日号）*だった。

ウクライナには270万人の障害のある人がいること、多くの障害のある人が支援なしには安全に移動できる状況にないこと、自閉症のある人の家族は短時間であっても外出がままならず、薬や食料を手に入れるための列や銀行のATMの列に並ぶことが困難であること、地下のシェルターに逃げることも困難だと報じている。

その後、インクルージョン・ヨーロッパ（知的障害者や家族団体のヨーロッパ・ネットワーク）が、ロシアのウクライナ侵攻後、全

ウクライナ知的障害者連合会のメンバーと電話、Eメール、メッセージアプリで連絡を取り、状況や必要なものなどを聞き取ったレポートを手にした。ロシアのウクライナ侵攻から1か月の知的障害者家族による「私は夜、枕に顔を押し当て叫ぶ」*と題する証言集だ。地域ごとに時系列で紹介され、家族からの写真の提供もある。窓の外の爆撃の音に怯え、暖房もなく、水や食料、抗けいれん薬などの不足、爆撃によって見る影もなくなった町の姿、いたるところにいるロシア軍への恐怖、ロシアの占領下でもリハビリテーションプログラムを継続している報告などが寄せられている。襲撃の激しい地域からの報告は、いのちを脅かされて生きる人たちの姿が伝わってくる。今この瞬間もいのちを、家族を、すべてを根こそぎ奪われている人たちがいる。誰であろうと、誰のいのちも奪ってはならないのだ。

国内に目を転ずれば、戦争しないことを約束した日本国憲法の改正論議が進められている。「日本も攻撃されるかもしれない。だから軍備が必要だ」こうした声に惑わされてはいけない。平和な社会でなければ、障害のある人たちは安心して生きることができない。誰もが安心して生きるためには1人1人が平和の大切さを噛みしめ、守っていくことだ。戦争できる国にしてはならない。その私たちの強い意思と決意が大事なのではないか。

*いずれも日本障害者協議会（JD）のHPに全文が掲載されている。翻訳は上野宏さん